第5課　郵便局

1．この課のねらい

(1)　はがき、切手などを、必要な枚数だけ買え、料金、所要日数などについての最も基本的な質問の仕方と理解ができるようにする。

(2)　速達、現金書留などに関する知識を与えること。封書、はがきなどのあて名や住所の書き方、切手のはり方などを示し、実際に自分で手紙を出すことができるようにする。

(3)　郵便局で使われている表示を理解し、表示に従って行動がとれるようにする。

2．学習項目とその扱い方

〔会話―1〕

(1)　学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○すみません。60円切手　5枚と35円のはがき　10枚　ください。(1) ○じゃ、40円のを　ください。(3)	○はい。(切手とはがきを出す。)700円に　なります。(6)
重要項目	○はい。(お金を出す。)(7)	○35円のはがきは、いま　売り切れなんですが。(2) ○40円のを　10枚ですね。(4)

(2)　準備

①各種切手、はがき、現金封筒、エアログラムなどを数枚ずつ用意する。

②両替の場面で〔会話―1〕が応用できるので、100円、10円などの硬貨を用意する。

③机の配置を郵便局の窓口のように並べておく。また、表示なども書いて、机の上にのせておくと分かりやすい。

④金額、品物、枚数などをかえた応用会話のテープを作っておく。

(3)　導入

「何枚ですか」「いくらのですか」と質問し、予習の有無を確認していく。〔会話―1〕のテープを聞かせて繰り返させたり、教授者の発話を繰り返させたりする。あるいは、

用意してきた切手、はがきなどを見せて語彙の確認、また、枚数の数え方の確認をしてから、郵便局で切手やはがきを買うという場面を設定して、学習者を客にして何と言うか聞いてみてもよい。

(4) 練習

①導入で、予習が十分行われていると確認できたら、「40円のはがき5枚、100切手2枚」などと、教授者が指示を与え、学習者に「40円のはがき5枚と100円の切手2枚ください」と言わせる練習をし、「と」の定着をはかる。

②予習が不十分だったら、まず、「はがき5枚ください」という言い方から練習をする。必要なら先に、〔1．表現練習〕を使って、数の数え方や、～円、～枚という助数詞を付けた言い方を練習しておいてから、〔3．表現練習〕で「～を～ください」の形を定着させる。

③なめらかに言えるようになったら、次に、「40円のはがきを5枚ください」、さらに「40円のはがき5枚と100円の切手2枚ください」というように、徐々に長い表現へと進めていく。

④「40円のをください」については、〔2．表現練習〕を使って練習する。「の」が十分使えるようになったら

A：35円のはがきを3枚ください。

B：35円のはがきは売り切れなんですが。

A：じゃ、40円のをください。

というような会話の形で、金額や品物、枚数をかえて練習を行う。このとき、「じゃ」という言葉が自然に出てくるようにしたい。また、Bを教授者が言って、「いま、ないんですが」とか「ちょうど、切らしているんですが」などというような表現に置きかえてみてもよい。

重要なことは、学習者に、35円のはがきは今ないのだということを理解させることである。また、「……売り切れなんですが」が質問の「……売り切れなんですか」と異なることも理解させたい。イントネーションに注意し、教授者の後に付いて繰り返し練習してみたり、教授者が自然な早さで発話してどちらを言ったか、学習者に当てさせてみてもよい。

⑤学習者が①から④まで確実にできるようになったら、会話本文の形に戻って全体の会話練習を行う。問題がなければ、金額や品物、枚数をいろいろにかえたり、洋品店とか文房具屋を想定して、シャツや画用紙などを買う練習をさせたりする。物やお金

を使って、実際にお店屋さんごっこをしてみるとよい。

〔会話―2〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○すみません。これ、航空便で　お願いします。(1) ○切手を　はりましたが、この手紙、どう　すればいいですか。(4)	○外の　ポストに　入れてください。(5)
重要項目		○「他府県」のほうです。(5)

(2) 準備

①はがき、切手、封筒、現金封筒などを用意する。

②「～ました」「～ませんでした」の練習をするための動詞のフラッシュカード。「どうすればいいですか」を練習するときに使う、ポストやポストのかわりになるような箱。また、スーパーマーケット、電気屋、喫茶店などの店舗の所在場所が分かる地図を用意する。

③なお、実際に学習者を郵便局に行かせる場合は、どの郵便局にするか、いつ行かせるかを決め、必要ならば事前に郵便局に事情を説明し、協力を求めておく。

(3) 導入

手紙を航空便で出すという場面を設定し、郵便局でどのように言えばよいか学習者に確かめてみる。その後、テープを聞いて質問をし、予習が行われているかどうか確認する。

(4) 練習

①「これ、航空便でお願いします」は、「速達」「書留」などとキューを与えて、置きかえ練習をする。

②「～ました」は、一応過去の形として教える。「～ます」→「～ました」のような、形をかえる練習で定着をはかる。その後、学習者の反応が早いようなら、否定の形も出し、「～ます、～ました、～ません、～ませんでした」を、フラッシュカードを使って反復練習して、整理し定着をはかる。

③〔5．会話練習〕も、学習者同士で行う練習に使える。また、否定の答えとして、「いいえ、まだです」も練習させておくとよい。

④「この」「これ」の区別をはっきりさせるために、次のような練習もできる。

練習例１　これは、40円のはがきです。→このはがきは、40円です。

２　これは、300円の切手です。→この切手は、300円です。

⑤まだ、形容詞は学習させていないが、学習者に応じて形容詞を入れた練習を行ってもよい。

練習例　これは、黒いかばんです→このかばんは、黒いです。

⑥「どうすればいいですか」については、次のような会話で____の部分を置きかえて練習し、またＢの指示に従って行動させるとよい。

練習例Ａ：切手をはりましたが、この手紙どうすればいいですか。

Ｂ：ポストに入れてください。（Ａは、ポストに入れる。）

(1)読みました。この本　　／　本箱に入れてください。

(2)名前を書きました。この紙　／　この箱に入れてください。

この練習は、〔会話―３〕の「～たい」を学習してからの方がやりやすい。（〔６．表現練習〕参照）

⑦また、「どうすればいいですか」の使い方の練習として、教科書（P.45）の「緊急用表現集」を使うのもよいであろう。例えば、「子供が迷子になって困っています」のところをさし、「どうすればいいですか」と言わせる。教授者はそれに対して自然な感じで「あ、分かりました。一緒に来てください」とか「交番に行けばいいですよ」などと答えてやるとよい。初めに、教授者が手本を示しておいてから、学習者に自由に選ばせる。できれば他の教授者や知り合いの日本人に事情を話しておいて、聞きに行かせて答えてもらうとよい。

⑧あて名の書き方や、現金封筒での送り方を練習した後で、学習者同士で手紙を出し合ってもよい。練習が十分に行われたら、郵便局へ行って実際に手紙を出させるとよい。

〔会話―３〕

(1) 学習項目表

区分	使　　用	理　　解
最重要項目	○小包を　福岡に　送りたいんですが、いくら　かかりますか。(1) ○何日ぐらい　かかりますか。(3)	○４日ぐらいです。(4)
重要項目		○ええと、１キロまで　800円、それから　１キロごとに　80円ずつ増えます。(2)

(2) 準備

小包、大きい日本地図、学習者が住んでいる場所の地図などや、手紙や小包の料金表などを用意しておく。

また、送る物や場所をかえた応用会話を用意し、テープに録音しておく。

(3) 導入

①用意してきた小包などを見せて、語彙をチェックする。書籍小包などの知識も与えておくとよい。

②日本での生活が長く、日常的な知識が十分あると思われる学習者の場合は、「今まで小包を送ったことがありますか」「どこに送りましたか」「いくらぐらいかかりましたか」などと聞いてみる。また、経験がなければ、「～までだと～グラムまでいくら」などと、用意してきた料金表を見せながら話してもよい。

③必要があれば、交通機関など学習者の身の回りの話題を使って練習する。また、「かかる」は、時間の場合にも、お金の場合にも用いられることを確認しておきたい。

例えば、教授者が住んでいる場所を地図で示し、「学校まで50分かかります」と言って「Ａさんは、何分かかりますか」と質問していく。次に、料金については「学校まで430円かかります。Ｂさんは、いくらかかりますか」と聞いて、確認していくとよい。

④小包をどこかに送るという場面設定をして、学習者にどうすればよいか言わせてみる。

⑤その後、会話本文や応用会話のテープを聞かせて、どのくらい理解できるか確認する。

(4) 練習

①〔６．表現練習〕を使って練習する。まず、「～(出し) たいんですが、どうすれば

いいですか」の形のうち「～(出し) たいんです」だけを作らせる練習をする。

「～たいんです」の形が、確実に言えるようになったら、「どうすればいいですか」を付けて「～たいんです。どうすればいいですか」の形の練習をする。

②「～が」の練習として、①で練習した形を「手紙を出したいんです。どうすればいいですか」→「手紙を出したいんですが、どうすればいいですか」という〔6．表現練習〕の形にかえさせる。

また、「手紙を出したいんですが、どうすればいいですか」が、なめらかに言えない学習者には、何回も同じことを繰り返させて、自信を失わせるよりも、まずここでは、二つの文に区切った形「手紙を出したいんです。どうすればいいですか」でとどめる。それも大変なようなら、ただ「手紙を出したいんですが…」という形で練習させて定着させておけばよい。

③予習が十分であれば、教授者と学習者の間で、会話本文の練習を行う。局員の発話のスピードを早くしたり、不明瞭にしたりして「すみません。もう一度言ってください」という練習をさせる。

〔会話―4〕

(1) 学習項目表

区分	使　用	理　解
最重要項目		○合計で、4,570円になります。(2) ○430円の　お返しです。(4)
重要項目		○5,000円　お預かりします。(4)

(2) 準備

公共料金の振込用紙、安売りの広告、そろばん、電卓、お金などを用意する。

(3) 導入

準備しておいた公共料金の振込用紙、安売りの広告などを見せて「何の料金ですか」「いくらですか」「どこで払いますか」などと質問する。その後、テープを聞かせて、予習の程度を確認する。

(4) 練習

①予習が十分に行われているようなら、〔4．会話練習〕を使って、たし算の練習をする。初めは、教授者がAの役をして質問を行うが、慣れてきたら学習者同士で質問させ、楽しく練習するとよい。また、必要ならば、もう一度〔1．表現練習〕などを使

って、数の数え方の復習をする。

②教授者が、数字を早く言って書かせたり、数字を書いたカードを見せて、正確に読ませる練習も必要である。

また、おつりを間違えられたときに、どうすればいいかということなどについても触れて練習しておくとよい。

③スーパーマーケットのレシートの金額を、教授者がゆっくり読み上げ、学習者に「合計でいくらになりますか」と質問させ、「○○円になります」と教授者が答える。また、「1,000円だします。おつりはいくらですか」などの練習も考えられる。

3．文型・文法に関する参考事項

助数詞一覧（その1）

区分	1	2	3	4	5
日(日数)	いちにち	ふつか	みっか	よっか	いつか
分	いっぷん	にふん	さんぷん	よんぷん	ごふん
キロ	いちきろ	にきろ	さんきろ	よんきろ	ごきろ
グラム	いちぐらむ	にぐらむ	さんぐらむ	よんぐらむ	ごぐらむ

6	7	8	9	10
むいか	なのか	ようか	ここのか	とおか
ろっぷん	なな(しち)ふん	はっぷん	きゅうふん	じっぷん
ろっきろ	なな(しち)きろ	はっ(はち)きろ	きゅうきろ	じっきろ
ろくぐらむ	なな(しち)ぐらむ	はちぐらむ	きゅうぐらむ	じゅうぐらむ

11	……	20	21	……
じゅういちにち	……	はつか	にじゅういちにち	……
じゅういっぷん	……	にじっぷん	にじゅういっぷん	……
じゅういちきろ	……	にじっきろ	にじゅういち(にじゅういっ)きろ	……
じゅういちぐらむ	……	にじゅうぐらむ	にじゅういちぐらむ	……